

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：82619

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320034

研究課題名(和文) 多数尊より構成される仏教尊像に関する調査研究 図像的典拠と分担製作の視点から

研究課題名(英文) Research on Groups of Multiple Buddhist Sculptures: With a Focus on the Iconographic Sources and the Division of Labor in Production

研究代表者

浅湫 毅 (ASANUMA, Takeshi)

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部博物館教育課教育講座室・室長

研究者番号：10249914

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は複数の像から構成される一群の仏教尊像に関して、図像的典拠と工房内での分担製作に着目するものであった。調査した作例は多岐にわたるが、その中からとくに重要と思われる 京都・海住山寺の四天王立像 神奈川・称名寺の十大弟子立像 三重・佛勝寺の十二神将立像 広島・棲真寺の二十八部衆立像について、作品の基礎データを平成28年3月発行の調査報告書に掲載した。また、特に十二神将像に着目し、ヴェネチア東洋美術館、神奈川・鎌倉国宝館、神奈川・宝城坊の作例に関して、同報告書で基礎データの報告をするとともに、図像的典拠と工房製作の問題に関して、考察を加えた。

研究成果の概要(英文)：This research examined Buddhist sculptures that were made in groups and considers their iconographic sources and the division of labor used in their production. Numerous cases were examined for this project, including the especially important examples of (1) Standing Four Guardian Kings at Kaijusen-ji, Kyoto, (2) Ten Great Disciples at Shomyo-ji, Kanagawa, (3) Standing Twelve Heavenly Generals at Bussho-ji, Mie, and (4) Twenty-eight Classes of Beings at Seishin-ji, Hiroshima. The data obtained from these studies were published in a report in March 2016. Special focus was made on groups of Twelve Heavenly Generals in the Museo d'Arte Orientale di Venezia, the Kamakura Museum of National Treasures, and Hojobo, Kanagawa. In addition to basic data, the report includes considerations on their iconographic sources as well as issues pertaining to their production.

研究分野：美術史

キーワード：彫刻 多数尊 図像 工房製作

1. 研究開始当初の背景

研究代表者が本科研申請時に在籍していた京都国立博物館では、平成19～22年度に『日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察』というテーマのもとで科学研究費による調査研究をおこなった。そのなかで、京都・法界寺の十二神将立像の調査をおこなったが、その際に多数より構成される尊像群、たとえば四天王、八部衆、十二神将などの図像的典拠や、複数の仏師による分担製作の実態などについては、まだまだ研究が進んでいないことに気付いた。

これまでの仏教彫刻の研究においては、我が国の平安時代後期以降の仏像は、基本的には定朝や運慶といった仏所(工房)を主宰する仏師のもとでの工房製作であることは、かねてより指摘されていたものの、多数の尊像から構成される一群の像において、それぞれの担当仏師の違いにまで踏み込んで分類する研究は、これまでほとんどなされていなかったといってもよい。

また、図像的典拠についても、仏典に規定のない、たとえば十二神将の像容に関し、これまでいくつかの典拠は指摘されてきたものの、仏師ないしは発願者が、何を基準にそのような図像をあえて選択したのかということに関してまで踏み込んでなされた研究もほとんどなかったといってもよいだろう。

2. 研究の目的

本研究のテーマにある多数尊から構成される仏教尊像とは、複数の像から構成される一群の像で、たとえば四天王、八部衆(二十八部衆)、十大弟子、十二神将、十六羅漢などをここでは指す。

これらは、同時代の作品でも作品間での変化をつけるためか、その形姿や持物などには様々なヴァリエーションがある。しかしそれらがどのような典拠(古典作品、図像、儀軌等)に基づき、どのように組み合わせられているのかなどに関しては不明瞭といえる。

また、研究当初の背景でも上述したごとく、一群の作例の場合、仏所(工房)を主宰する仏師のもとでの工房製作であることは知られていたものの、工房における分担製作の実態に関しては文献等もなく不明な点が多い。したがって、実際の作例を精査して、その作風のわずかな違いを手掛かりに分類を進める必要がある。

本研究では、上記のごとく不明な点が多く残されている多数尊より構成される尊像群について、図像的典拠と工房における分担製作の視点から、著名な作例、基準となる作例に加え、様々な作例についてあらためて詳細な調査をおこない、データを収集したうえで、分析をおこなおうというものである。

3. 研究の方法

本研究では、四天王、八部衆、十大弟子、十二神将、十六羅漢などの群像、それぞれにおいて、まずは基準となる作例に関して、データ(文献資料および写真資料)の収集をはかり、必要に応じてそれら基準となる作例の実地調査をおこなうことで、研究の基礎となる情報を収集し、研究代表者、分担者、連携研究者の間で共通の認識とすることをはかった。

その上で、実地調査によって得られたあらたな作例のデータを整理検討し、基準となる作例との比較をおこなうことで、仏師がいかなる図像的典拠によってその作例を製作し、その典拠がどのような基準によって選択されたものか、という点に関して考察を進めた。

また、豊富な作例が残る韓国においても四天王、八部衆などの遺例を調査し、我が国の図像との違いに関しても、比較検討をおこなった。

その一方で、各群像内における工房製作の実態に関しては、目視による表面観察で造形、装飾、技法などの違いを検討するとともに、レーザ光線による三次元計測で得られたデータ等の科学的分析も援用し、客観的な視点からの比較にも努めた。

4. 研究成果

初年度である平成24年度には、鎌倉国宝館・十二神将立像、神奈川称名寺・十大弟子立像、愛知県美術館・神将形立像の調査をおこない、京都国立博物館・十大弟子立像の三次元計測をおこなった。

二年度である平成25年度には、昨年度に引き続き神奈川称名寺・十大弟子立像の調査をおこない、すくなくとも仏師3名による分担製作であることが分かった。また、高野山霊宝館・四天王立像の調査をおこない、大仏殿様四天王像の基準作例の貴重なデータを得ることができた。大韓民国、ソウルおよび慶州の国立博物館において調査をおこない、同国の基準作例となる石造の四天王および八部衆像について貴重なデータを得た。また、京都浄福寺の釈迦如来立像(清凉寺式)について、X線透過撮影をおこない、構造の詳細について知見を得た。

三年度である平成26年度には、奈良国立博物館で開催された『鎌倉の仏像』展、京都国立博物館で開催された『南山城の古寺巡礼』展、東京国立博物館で開催された『みちのくの仏像』展において、図録解説等に本科研の研究成果を反映した。また、出品された彫刻作品に関し、あらためて詳細な調査をおこない、関東、関西、東北のそれぞれ基準となる作例のデータを得ることができた。寺院における調査としては、広島棲真寺・二十八部衆立像の調査をおこない、これが鎌倉時代初期の慶派仏師による貴重な作例であることに気付いた。

最終年度である平成27年度には、神奈川
宝城坊(日向薬師)・十二神将立像、三重佛
勝寺・十二神将立像の調査をおこない、平安
時代にさかのぼる貴重な作例の調査をおこ
なうことができた。その結果、前年度までに
調査した、鎌倉時代の十二神将像と比較検討
することが可能となった。海外の作例として、
ヴェネチア東洋美術館・十二神将立像の調査
をおこなった。

これらの調査の中から、特に重要と思われ
る

京都・海住山寺 四天王立像
神奈川・称名寺 十大弟子立像
三重・佛勝寺 十二神将立像
広島・棲真寺 二十八部衆立像
ヴェネチア東洋美術館 十二神将立像
神奈川・宝城坊 十二神将立像
鎌倉国宝館 十二神将立像

に関しては、平成28年3月に報告書を発行
し、その詳細をひろく研究者に公開した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線)

〔雑誌論文〕(計 14 件)

浅湫 毅、大倉集古館蔵「伝法蓮房坐像」
の像主について、MUSEUM、査読有、
659号、2015、pp.43-57

浅湫 毅、興福寺東金堂の維摩居士・文
殊菩薩像をめぐる、仏教美術論集3
図像学 イメージの成立と伝承(浄土
教・説話画)、査読無、2014、pp.389-403

山口隆介、醍醐寺三宝院弥勒菩薩像と仏
師快慶 後白河院追善像としての側面に
注目して、国宝醍醐寺のすべて、査読
無、2014、pp.235-239

岩田茂樹、キンベル美術館・快慶作木造
釈迦如来立像について、MUSEUM、
査読有、646号、2013、pp.7-26

浅湫 毅、夢違観音の伝来について、て
ら ゆき めぐれ 大橋一生博士古希記
念美術史論文集、査読無、2013、
pp.165-174

浅湫 毅、木村定三氏旧蔵の木造不動明
王立像について、愛知県美術館研究紀要、
査読無、19号、2013、pp.20-26

岩田茂樹、信楽・来迎寺の院快・院静・
院禅作阿弥陀三尊像について、MUSE
UM、査読有、640号、2012、pp.5-25

〔学会発表〕(計 4 件)

浅湫 毅、浄瑠璃寺九体阿弥陀と四天王
像をめぐる、仏教美術研究上野記念財
団助成研究会(招待講演)、2014、京都国
立博物館

岩田茂樹、海住山寺の四天王像とその周
辺、仏教美術研究上野記念財団助成研究
会(招待講演)、2014、京都国立博物館

〔図書〕(計 10 件)

浅湫 毅、岩田茂樹、山口隆介、浅見龍
介、井上一稔 他、科学研究費補助金[基
盤研究(B)]報告書 多数尊より構成さ
れる仏教尊像に関する調査研究 図像的
典拠と分担製作の視点から、京都国立
博物館・東京国立博物館、2016、90

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

無し

6. 研究組織

(1)研究代表者

浅湫 毅(ASANUMA, Takeshi)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物
館・学芸企画部博物館教育課教育講座室・室
長
研究者番号：10249914

(2)研究分担者

村上 隆(MURAKAMI, Ryu)
独立行政法人国立文化財機構京都国立博物
館・学芸部・部長
研究者番号：00192774
平成25年度まで

岩田茂樹(IWATA, Shigeki)
独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物
館・学芸部・上席研究員
研究者番号：20321622

山口隆介(YAMAGUCHI, Ryusuke)
独立行政法人国立文化財機構奈良国立博物
館・学芸部・研究員
研究者番号：10623556

浅見龍介 (ASAMI, Ryusuke)
独立行政法人国立文化財機構京都国立博物
館・学芸部・上席研究員
研究者番号：10623556
平成26年度より

(3)連携研究者
井上一稔 (INOUE, Kazutoshi)
同志社大学・文学部・教授
研究者番号：40193578